

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームたみの里 一日乃出町 1階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	平成28年8月9日	評価結果市町村受理日	平成28年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節行事などを設定し、室内イベント、外出を楽しんで頂けるよう努めています。月に一度来所して下さるボランティアさんは10年以上継続して下さり、入居者様も毎月楽しみにされております。また、入居者様の体調管理にも力を入れており、事業所統一のメニューで栄養バランスのとれた食事を提供させて頂いており、毎食、食事量、水分摂取量を記録し、体調の変化に留意しております。さらに職員の研修にも力をいれており、毎月の定例会で年間計画に沿ったテーマで研修を行ったり、研修室によるキャリアパス研修も行い職員の資質向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から13年となり、散歩やどんど焼きで出遭う人たちに「あ～(知ってるよ)」と歓迎してもらえ、中学生の福祉体験を受け入れたり、またボランティアグループとは12年という長いおつきあいとなっています。一方、本部では数年前に研修室を立ち上げ、接遇、身体拘束排除、移乗移動介助等を教育プログラムにまとめて『基礎研修』を実施しており、また毎月の定例会では管理者が振り返りの所内勉強会をおこない、引き締めを図る仕組みもあります。至るところに手作り品が見られ、特にクラフト制作に長けていて、ロゼシアターの作品展には毎年出品して皆で見学に出かけ、利用者の生きがい、やりがいにつなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同がその理念を共有し、利用者様の生き生きとした表情が見受けられる場面を設定できるよう努め、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。	法人理念に基づき事業所目標を立てており、本年は『寄り添う介護』です。生き生きとした表情を引きだせるとして外出機会を増やしたり、ちょっとした時間で個別の場をつくるよう努め、例えばピアノ教師だった人には職員が自宅からキーボードを持ち込み回想を支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内で行われる年2回の防災訓練や一月に地区の公園で行われるどんど焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。	開設から13年となり、散歩やどんと焼きで出遭う人たちに「あ～(知ってるよ)」と歓迎してもらえます。現在、保育園などとの定期交流はありませんが、中学生の福祉体験を受け入れたり、またボランティアグループとは12年という長いおつきあいとなっています。	「隣近所のつきあいがある」というグループホームの在り方は充分達成していますが、スキルや経験を活かした貢献についての取組みを期待します。例. 地域の防災訓練で車いすの講習をおこなう
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共にこない、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、市町職員、包括センター担当者、町内会長、民生委員、御家族様等と意見交換をし、サービスの向上に活かせるようしている。	運営推進会議へは地域包括支援センターから毎回、市役所担当者も隔回出席くださり、普段聞けない見識を届けてもらえ、学びの機会となっています。地域・行政・事業所の三位一体が頼もしくもある防災に係る内容が増えつつあり、積み重ねの成果に期待が膨らみます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して質問や意見交換をしている。	運営推進会議における家族の参加率を上げるため「休日や夜間の開催を」と考えた際、「年間でスケジュールを出してくれたら調整しますよ」と言って下さる協力的な行政態勢に恵まれ、普段から相談しやすい関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束、虐待についての研修を外部の講師により受講し、尚且つ、定例会時にも研修室による研修を受講し、事例を用い職員間で意見交換しながら身体拘束をしないケアについて学び、理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	外部講師を招いた研修会を経て、抑制の言葉が減ったとの効果がみられています。日常的に事例を挙げての共有理解を進めるほか、「継続しとれなくてもトータルで1時間とる」「(本部で)ストレスチェックの導入の検討」等職員のメンタル面においても配慮がみられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、虐待に関しての研修を受講し、基礎研修の内容にも高齢者虐待防止法が盛り込まれており、虐待の定義についても理解し、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。	献立は本部で決めています。月2、3回「お楽しみメニュー」を設け、利用者の声を反映させています。「家族向けの防災マニュアルがあるといひね」との家族の進言も検討に入っており、できるだけ要望に副うようにしています。	「笑顔通信」の便りに担当者名と写真を入れ、居室担当と家族のコミュニケーションがさらに促進することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、各ユニットの定例会時や朝の申し送り等に提案できるよう努めている。	職員は、排泄係、献立係、営繕係と役割を通じて介護サービスや利用者本人のアセスメントへの着想が進んでおり、さらに会議をユニット毎におこなうよう切り替えてからは、ケース検討がスムーズとなり、発言も増えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、評価後、各自面談を行い意欲の向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修やグループホーム交流会などを通して、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしとしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いや片付けをして頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、日常出来る事を職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	俳句を嗜む人の力作はリビングに掲示し、地元紙のフジニュースにも何度も掲載され、本人が「まだ載らないかなあ」と気にすると、職員が電話で確認して応援しています。珈琲好きな人がいつでも飲みたいとき飲めるよう、携帯ポットに365日用意する例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にしながら、時に職員が間に入り、共に会話を楽しんだり、仲を取り持つようにして、利用者同士の人間関係が円滑に行くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思いや希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	担当制も敷かれるなか、普段の何気ない会話からの発語を大切にしています。以前、野良仕事をしていたことから食事前の入浴が習慣だったことがわかり、自由な時間での入浴に対応を変えたところ落ち着いたという例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況変化時、定時においては、カンファレンスをおこない記録に記している。問題となっている事を、御家族本人を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け本人の意向に沿えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議・カンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、モニタリング実施。本人の意向を随時確認、家族の要望を取り入れ、各関係者と連携を図りながら介護計画を作成している。	カンファレンス兼担当者会議には家族も出席し、意見や要望を提言でき、また現場の意見を聴く事も叶っています。介護計画書には協力医の傘下である訪問看護師の意見が含まれたり、症状によっては医師と家族を交えた話し合いをおこない計画書に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむ事に協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	事業所の協力医に8割程度変更していますが、在宅の頃からのかかりつけ医であっても家族の要望があれば職員が通院介助しています。本年から血圧チェックを1日2回と増やして数値変化での対応をおこない、また希望や状態に合わせた歯科衛生士や歯科医の来訪もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、又は電話連絡をし状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面話し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と利用者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	親身で対応の素早い協力医と訪問看護師に恵まれてはいますが、医療が必要な場合は難しいことを家族には理解を得ています。ただし、事業所努力でストマ、カテーテルレベルであれば可能としています。近年取組み例がなく、入職数年の職員のメンタルにはやや心配も残ります。	看取りにおける心構えや貴重な体験談を聴ける場へ参加できるよう、検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者と共に防災訓練を行っている。	年2回の法定訓練とともに地域の防災訓練にも出向き、地域へは車いすの利用者も参加し「寒くないですか」と声もかけてもらっています。消費期限の迫っている備蓄が50食分あり、町内会長に「地域の防災訓練で炊き出しに活用してもらえないか」と打診中です。	職員も入れ替わっているため、一度消防署の立ち合い指導があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に寄り添いその場面に応じた言葉掛けをするよう心掛けている。	半年に1回本部で接遇訓練をおこない、何度も繰り返すことで職員へ体得を促しており、トイレでの声掛けのボリュームが全体的に小さくなったことは目に見える成果です。面会簿は1家族1シートで職員がファイリングしており、他の人の眼にふれないよう工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人一人の会話や行動の中で、利用者の希望や思いを感じ読み取り、できる限り叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が一日にやりたい事を自由に声掛けしたり行動を読み取り、可能な限り自由に行って頂けるような環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に髪の設定を行っている。訪問美容の提供や職員によるカットをしており利用者の希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事のお楽しみ献立があり、利用者の好みを考え、喜んで頂けるような献立を調理する人が考えている。食前の準備、片付けはできることを手伝って頂き、職員と食事を共にし利用者との時間を共有している。	本部の栄養管理の下、献立が決められ、職員が調理しています。月数回のお楽しみメニューでは焼きそばが好評のほか年1、2回外食ドライブがあり、また「外食気分を味わおう」ということで月1回カレー、うなぎの日があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当が、献立表を確認し、メニューの見直しを行っている。利用者一人一人に合わせた食事形態で提供しており、一日の食事量、水分摂取は生活日誌に記入し、利用者の状態を把握する為の目安となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声掛けにて行って頂き、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。希望により週に一度、訪問歯科を受診する利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合わせた時間誘導をしたり、本人の訴えによりトイレ誘導を行っている。オムツやパットの使用枚数を少しでも減らしていけるよう努め、自立に向けた支援を行っている。	各フロアに3箇所あり、内2つは車いすもスムーズに入ることができます。設置の手洗い場では自主的に洗浄する利用者もいて、ペーパータオルでの手拭きで衛生面も万全です。リハビリから布パンに向上した例も多くあり、カンファレンスで家族に状況報告をして喜ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外に一日、二回の水分摂取を行っており、全量摂取して頂けるよう声掛けをしている。水分をなかなか摂取して頂けない利用者にはお茶以外のもので提供している。毎朝ヨーグルトを提供し、運動不足からくる便秘予防には体操への参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者個々の状態に合わせて入浴順序を変えたり、介助の方法や器具の工夫をして安心して入浴出来るようにしている。また入浴剤を使用して湯温を一人一人の好みに合わせ入浴を楽しみやすい環境作りにも努めている。	清潔保持を鑑み週3日をめやすとしつつも、拒否には無理強いせず、その人の持つ能力を活かした対応を旨としています。例えば、こまめな人に「一緒にお風呂掃除してもらえますか」と誘い、一所懸命に掃除をすることでいつの間にか自身が入浴できてしまう功奏もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や体調を考慮し、日中、臥床時間を設けたり、レクリエーション等で活動的に過ごして頂いたり、各利用者に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしており、変更があった場合は、申し送り、経過記録に記入し、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態に合わせて洗濯物たたみ、食事の準備、片付けなどの役割を持って頂いている。個々の時間やレクリエーションの時間において楽しみをもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や利用者の体調に合わせて、出来るだけ散歩に出掛けられるよう心掛けている。	日常的にはレクリエーションの時間帯を置き換える形で散歩に出ています。歴史民俗資料館ではかぐや姫ミュージアムへの立ち寄りを勧められ、利用者の要望もあって思わぬプラスαの探訪となりましたが、職員の柔軟な動きで即座に実現できたことが今後生きる体験となりました。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理できる方がいないので金銭を所持している方はいないが、今後、自己管理できる方が入居してきた場合は、本人の希望で使えるよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の希望に応じ使用して頂けるようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームの窓際の光の入り方により、利用者に不快感を与えない様にカーテンの開閉を心掛け、又、温度、湿度の確認を行い居心地の良い環境作りをしている。日中、臥床して過ごしている時間が長い利用者の居室は光度により、照明の点灯にも心掛けている。	廊下、リビングの壁には季節のクラフト作品や外出での写真が連なっています。1階では臥床して過ごす利用者が多いことから日中を明るく、夜間を暗くしてメリハリをつけています。2階ではエアコンの風向きが行き渡るようにしたり、掲示書面も利用者が見えるよう大きく伸ばしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間ではテレビ観たり、自席でくつろいだり、談話されたりし、レクリエーションの時間は一つのテーブルに集まり体操等を皆で楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参して頂き、利用者の好みに合わせている。利用者の活動範囲に合わせ、配置を変えたり物の整理をしている。	1階では鏡台、テレビ、チェスのほか家族写真に囲まれた居室を視認しました。また2階には、つり雑をはじめ色とりどりのアクティビティ作品を並べ、賑やかな小物を眺め暮らす部屋もあり、その人それぞれの趣を受けとめました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を確保し、出来るだけ安全に歩行できるよう配慮し、常に確認を行っている。居室内の環境も利用者の状態に応じ、職員と話し合い変更したりしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームたみの里 一日乃出町 2階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	平成28年8月9日	評価結果市町村受理日	平成28年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節行事などを設定し、室内イベント、外出を楽しんで頂けるよう努めています。月に一度来所して下さるボランティアさんは10年以上継続して下さり、入居者様も毎月楽しみにされております。また、入居者様の体調管理にも力を入れており、事業所統一のメニューで栄養バランスのとれた食事を提供させて頂いており、毎食、食分量、水分摂取量を記録し、体調の変化に留意しております。さらに職員の研修にも力をいれており、毎月の定例会で年間計画に沿ったテーマで研修を行ったり、研修室によるキャリアパス研修も行い職員の資質向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から13年となり、散歩やどんど焼きで出遭う人たちに「あ～(知ってるよ)」と歓迎してもらえ、中学生の福祉体験を受け入れたり、またボランティアグループとは12年という長いおつきあいとなっています。一方、本部では数年前に研修室を立ち上げ、接遇、身体拘束排除、移乗移動介助等を教育プログラムにまとめて「基礎研修」を実施しており、また毎月の定例会では管理者が振り返りの所内勉強会をおこない、引き締めを図る仕組みもあります。至るところに手作り品が見られ、特にクラフト制作に長けていて、ロゼシアターの作品展には毎年出品して皆で見学に出かけ、利用者の生きがい、やりがいにつなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同がその理念を共有し、利用者様の生き生きとした表情が見受けられる場面を設定できるよう努め、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行われる年2回の防災訓練や一月に地区の公園で行われるどんどん焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共にこない、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、市町職員、包括センター担当者、町内会長、民生委員、御家族様等と意見交換をし、サービスの向上に活かせるようしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して質問や意見交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束、虐待についての研修を外部の講師により受講し、尚且つ、定例会時にも研修室による研修を受講し、事例を用い職員間で意見交換しながら身体拘束をしないケアについて学び、理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、虐待に関しての研修を受講し、基礎研修の内容にも高齢者虐待防止法が盛り込まれており、虐待の定義についても理解し、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、各ユニットの定例会時や朝の申し送り等に提案できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、評価後、各自面談を行い意欲の向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修やグループホーム交流会などを通して、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いや片付けをして頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、日常出来る事を職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にしながら、時に職員が間に入り、共に会話を楽しんだり、仲を取り持つようにして、利用者同士の人間関係が円滑に行くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思い希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況変化時、定時においては、カンファレンスをおこない記録に記している。問題となっている事を、御家族本人を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け本人の意向に沿えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議・カンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、モニタリング実施。本人の意向を随時確認、家族の要望を取り入れ、各関係者と連携を図りながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむ事に協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、又は電話連絡をし状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面会し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と利用者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者と共に防災訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、その時に応じた自尊心を傷つけない言葉掛けをするように心掛けている。(名前は名字で呼ぶ事の徹底を図っている)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、利用者一人一人と向き合い、寄り添い、行動・会話の中で、希望や思いを感じ取り、できる限り願いを叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が自分のペースで自由に生活して頂けるよう、無理強いすることなく、可能な限り希望にそえるような環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に確認し、訪問美容の提供を行っている。また、その方らしさを意識して、毎日の気候に合う服装・外出時の服装選びの手伝いと、起床時や入浴後に髪の毛のセットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日やイベントの日には利用者（誕生者）の好みに配慮し、喜んで頂けるような献立にしている。食前の準備や食後の片付けを利用者に手伝って頂くと共に、職員と一緒に食事をし、時間の共有を図っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当が献立表を確認、メニューの見直しを行い、利用者一人一人に合った食事形態を工夫・提供している。利用者の健康状態を把握するため、一日の食事量、水分摂取量は日誌に記入し、役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で歯磨きできる方には声掛けを行っている。介助が必要な方には、自分で磨く事ができない部分について、口腔ケアを行っている。希望のある利用者には、週に一度訪問歯科を受診して頂いている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合わせた時間誘導をし、声掛け等も工夫し、見守り対応している。紙パンツ・パットの使用を減らしていけるよう努め、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供は10時・15時と入浴後の外、状態に合わせて夜間も行っている。ヨーグルトは毎朝提供。運動不足や便秘予防に、毎日体操・レクリエーションをし、体を動かしている。排泄チェック表を確認し、必要場合は、訪問看護師と連携し、薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者個々の状態に合わせて入浴順序を変えたり、介助方法や器具の工夫をしている。歌や昔話などで、安心して楽しく入浴できるように配慮。また入浴剤を使用し、湯温を一人一人の好みに合わせ、入浴を楽しめる環境作りに努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂けるよう、日中はレクリエーションや家事等をして過ごしている。又、体力・体調を考慮し、臥床時間を設けたり、日中・夜間、利用者に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしている。変更等があった場合、引継ぎや申し送りノートにて周知徹底している。その後の様子観察も行い、経過記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事を把握し、洗濯物たたみ・食事の準備・片付け等役割と自信を持って頂き、楽しく生活できるように努めている。個々の時間やレクリエーションの時間においても、参加する事で、気分転換となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、散歩や外気浴を行っている。季節を感じる場所等をよく検討し、計画を立てて外出する機会も大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時のお土産等、買い物を自由に行える楽しみをもってもらうように、本人の希望でお金を使えるようにしている。また、基本的には家族が管理、一部を利用者が所持して、在宅生活同様の交際費などへの使用について、見守り支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方への電話や手紙のやり取り(年賀状など)は、希望に応じて利用して頂けるようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、温度・湿度計の数値を見て空調の調整をし、光度と共に不快感を与えないように細心の注意を払っている。季節に合わせて利用者と一緒に作成した掲示物をフロアに掲載し、季節を感じて頂けるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間ではテレビを観たり、ソファでくつろいだり、談話されている。レクリエーションや体操等は皆で楽しく行えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた物を持参して頂き、利用者が過ごしやすように配慮している。利用者の活動範囲に合わせ、配置を変えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりの設置によって、利用者個々の状態に合わせ、できる事を生かして安全に過ごせるようにしている。また、各居室に表札を付け、わかりやすく工夫をし、自立した生活への支援をしている。		